

私たちの町の文化財

■第6話 春日寺

花岡山の南東麓、九州新幹線のすぐ西側にある春日寺は、臨済宗大徳寺派の寺院で、院号は大平山岫雲院（たいへいざんしゅううんいん）といいます。本堂は細川家の菩提寺である妙解寺の建物が移築されたものでしたが、現在は残っていません。延久5年（1073）に菊池則隆が創建したとされています。もとは天台宗でしたが、豊臣秀吉による朝鮮出兵のころ、廃れつつあったお寺を菊池隈府正観寺の隠居僧であった渭雲が再興し、その際に臨済宗となりました。

江戸時代になり、細川忠利が肥後に入国して間もないころ、春日周辺で鷹狩りを行い、その際にこの春日寺で休息されました。住職の恵伯がお茶と菓子を出し、忠利と話しをしました。忠利はこの寺が臨済宗と知り、自分の死後はこの寺で火葬するように頼みました。お供の林外記には「居ながらにして月を見るよう」に荒れていたお寺を修復するように命じられました。

寛永18年（1641）に忠利はこの寺で火葬されました。その際、忠利愛育の鷹2羽を放したところ、1羽はその火の中に、もう1羽は寺の井戸に飛び込んで死んだという逸話が残っています。忠利は鷹たちをととても可愛がっていたのでしょう。

（熊本市文化振興課 赤星雄一氏）

発掘調査中の春日寺本堂

忠利公の愛育の鷹が
火葬中の井戸に
飛び込んで死んだ
という逸話がある
という話に

